

## 第6回 福岡空港滑走路増設事業 環境影響評価技術検討委員会

(議事要旨)

日時：平成27年9月30日(水) 13:30～14:30

場所：福岡第二合同庁舎 2階 共用第2～3会議室

出席委員：

薛 孝夫（西日本短期大学 特任教授）

田村 耕作（日本野鳥の会 福岡支部 副支部長）

野上 敦嗣（北九州市立大学 国際環境工学部 教授）

松藤 康司（福岡大学 工学部 教授）

吉久 光一（名城大学 学長）

<敬称略：五十音順>

**議事要旨：**

### 1. 環境影響評価に係る手続きの経過報告について

- ・これまでの環境影響評価に係る手続きの経過について事務局から報告を行った。

### 2. 環境影響評価書（補正）について

- ・資料2「福岡空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書（補正）」について、事務局より説明を行った。
- ・以下の質疑及び助言が行われ、環境影響評価書（補正）の内容について了解が得られた。

### 【個別的事項】

#### ■資料2-P.6

委員：騒音軽減運航方式について、現在できるものはすべて実施しているということであるが、低騒音型の航空機導入については、現在、航空会社への働きかけを行っているか。

事務局：低騒音型の航空機導入の判断は、航空会社が行うことになるが、航空局より、福岡空港に就航する航空会社に対し、より低騒音な機材の使用について、協力依頼を发出している。

委員：低騒音型航空機の導入促進のため、低騒音型航空機の着陸料を下げるという対策は、考えられないか。

事務局：国管理空港では全国一律の料金体系としている。現時点では着陸料の値下げによる効果も不透明であるため、まずは、機材更新の機会を捉えてでも航空会社へ低騒音型航空機の導入を促すことを進めたいと考えている。

#### ■資料2-P.6

委員：防音壁については、設置範囲、高さ、材質のほかに、日照、景観、地域分断、風通しなどの影響も懸念される。計画を立てる上で、住民の意見聴取はどのように行うのか。

事務局：防音壁設置計画の周辺住民への説明は既に始めている。ご指摘の景観等の観点も踏まえた案を提示するなど、丁寧に説明を行い、住民の理解を得た上で進めていきたい。

委員：住民それぞれで意見の違いは出てくると思われるが、丁寧に調整していただきたい。

■資料 2-P. 8

委員：通年で行う環境監視調査の結果は、どの程度の頻度で公表するのか。

事務局：できるだけ細めに公表したいと考えている。測定してから公表までに要する時間が必要だが、月 1 回程度は更新・公表したいと考えている。

委員：確定値でなくても、速報値として、できるだけ早く公表された方がよい。

■資料 2-P. 8

委員：「事業者の見解（案）」における記載ぶりについて、意見は 2 点であるのに対して見解は 3 点での構成となっており、表現が分かりにくい。

事務局：より分かりやすくするため、見解の 1 点目と 2 点目を合わせて記載するなど、表現の修正を行う。

■資料 2-P. 15

委員：福岡空港において、オイル漏れの実績はどの程度あるか。

事務局：オイル漏れの件数までは把握していないが、大きな漏出の例は確認されていない。

委員：どの程度の量のオイル漏れが発生するとどのような対策を行うのか。ある程度のオイル漏れ時に係る対応を考えておいたほうがよいのではないか。

事務局：工事は、特殊な工法等は想定しておらず、大規模なオイル漏れは想定されないため、資料に記載のとおり、これまでの通常の対応でよいと考えている。

■資料 2-P. 17、19

委員：短期的な特異な気象条件時のシミュレーションについてはこれまでも議論があったが、当該条件時の対応をしっかりと評価書に記載されることは良いことである。微小粒子状物質（PM2.5）についても、調査がなされて整理されていることは評価できる。  
なお、特異な気象条件時については、「現地で確認されている気象状況を詳しく確認したうえで・・・」と記載されているが、その確認は、「そらまめ君」などで、近傍の気象庁の観測データ等を確認するのか。

事務局：気象については、福岡空港内（福岡航空測候所）で観測しているデータがあるため、そのデータを確認することを想定している。但し、夜間の工事は 23 時から 6 時であり、気象状況的に短期的な影響が考えうる明け方から昼間の工事開始までの時間帯については工事を実施する予定はないため、保全措置の実施対象となるような状況となる可能性は低いと考えている。

委員：福岡航空測候所では濃度の測定はしていないと思うが、濃度的な状況の把握は、空港周辺での測定局でのデータと比較して確認していくイメージか。

事務局：そのとおりである。

委員：大気質濃度は、国外からの影響等も含め、変動する側面もある。工事の影響等を考えるうえでは、PM2.5 など他の大気質濃度に係る項目等の関連情報も併せて確認するとよい。

■資料 2-P. 21

委員：対策として、バードパトロールを行うことは必要であるが、空港内で鳥が住み難い（寄り付きにくい）環境づくりも必要ではないか。

事務局：バードストライクがおきている鳥の種類を極力把握しつつ、鳥が住み難い（寄り付きにくい）環境づくりのため、現在行っている、巡回、空砲、草刈等の管理を引き続き行っていく。

委員：福岡ではバードストライクは少ないのか。

事務局：他空港と比較して特段多いということは無い。種類のにはスズメなどが多い。

委員：福岡市内では、ごみ収集の時間帯により昼間にごみが屋外に存置されていないため、カラスが市内には少ない。また、海に近い環境であるがカモメも少ない。バードストライクの危険性が出る場合には、対策を行っていくとよい。

■資料 2-P. 23

委員：温室効果ガスについては、将来的には、対策の効果を定量的に把握していくことも考えていくとよい。成田空港のエコ対策にも記載があるなど、対外的にアピールしている事例もある。

3. その他

- ・今後の手続きスケジュールについて、事務局より説明を行った。
- ・本日の審議を受けた評価書（補正）の修正対応については、委員長に一任することで了承された。

以上